

山 奎

誠 編

田家
奇遇
春雨
日記

古
典
文
庫

山
奎

誠

田家
奇遇

江苏工业学院图书馆
藏雨章

日記

古
典
文
庫

平成十一年一月二十日印刷發行 非売品

編者 山^{やま}杢^{もく}誠^{まこと}

發行者 吉田幸一

印刷者 白橋印刷所

製本者 共伸舍

遇奇家田 日記雨春

發行所

114

0024

東京都北区西ヶ原
三ノ三四ノ一二

古典文庫

電話 〇三(三九一〇)二七一七
振替口座 〇〇一九〇九一四五九七番

目次

凡例……………三

春雨日記 三編九冊

初編上……………五

初編中……………四九

初編下……………八一

二編上……………一二一

二編中……………一六五

二編下……………一九五

三編上……………二三五

三編中……………二六三

三編下……………二九七

解説……………山 杳 誠……………三三

凡 例

一 本書には天保度における初代為永春水作の人情本『春雨日記』初～三編を収めた。

二 底本には古典文庫所蔵本を使用した。また、底本に虫損等のある場合は蓬左文庫所蔵尾崎久弥旧蔵本を参照した。

三 翻刻にあたっては原本に忠実であることを旨とするが、具体的には次の方針に従った。

1 原則として平仮名・片仮名・漢字の表記は現行の字体に従った。

2 漢字の正字や異体字については、できる限り底本のとおりに翻字した。但し、異体字は便宜上、情報交換用漢字符号系（JIS漢字表）に対応するものを採用したので、例えば頻出する「𪛗」、「𪛘」、「𪛙」などの異体字でも、それぞれ「事」、「兒」、「回」と翻字した。

3 振り仮名・振り漢字・捨て仮名・疊字・引用記号・句点など底本のとおりの

とした。但し、会話の部分は原本の表記に拠らず「『』」を用い、また私に読点を施したり一字分空けるなどして、通読の便を図った。

4 明らかな誤字脱字についてもそのとおりに翻字し、その脇に（ママ）と記した。

5 丁移りはその丁の表・裏の末尾を示すことにし、底本の丁付に従い（一オ）などと示した。

6 口絵・挿絵は作品ごとに通し番号を付け、〔口絵第〇図〕などと示し丁付を付した。挿絵は本文の近くに挿入した。

本書を成すにあたり、原本の利用をご許可下さった方方に感謝致します。

平成一〇年一〇月

山 杣 誠

春
雨
日
記

初編
上

田家
奇遇
春
雨
月
記

戒色アム唐詩ヲ為證

昨日ア涼リ鶯アリ今日ア蟬アリ
起キ來テ又レ是ニ夕陽アリ天
六リ龍リ飛レ蟬レ長ク相シ窈ニ
更ニ忍テ來レ危ニ自コ著マ鞭ハヤム

狂訓亭主人著

一筆菴英泉画



田家
奇遇

春雨日記

戒_{レム}色_ヲ唐詩為_レ證

昨_一日流_一鶯_{アリ}今_一日蟬_{アリ}

起_キ来_テ又_一是夕陽ノ天

六_一龍飛_{レシテ}轡_ヲ長相_一窘_{クルシム}

更_ニ忍_テ乘_{レテ}危_ニ自著_ク鞭_ヲ
コマヲハヤム

狂訓亭主人著

一筆庵英泉画

(口ノ一才)



はるさめにつき
春雨日記の序

書は山の如く國にあれども縁なき者は見ることなし 財はかべを過
ても日々たづさへて行こと難し 身につむ智慧は何方へもしたがひ行
もの也 されば賢人は智を貴み財をいとふ 金は山ほど持たり
(ロノ一ウ)とも、飢時にくはれず寒時に着ことならぬもの也 太平の
金錢にてももの、自由になるを 米穀と衣服は誠に國の宝なり 一粒をくふ
時も農夫年中のくるしみを思ふべし 木綿の服を着時も織女の辛苦
を感じずへし 耕作する者なくは食を得ることなし 世間の人がひ
に恩あることを(ロノ二オ)思へ 今や春雨日記と題号して婦女の恋
情のみをしるせしはいかにぞや 繁花に生れし幼少達が安樂を



口ノ四ウ



口の五+

難有^{ありがたし}とは思はずして、不及^{ふきう}の願^{ねがひ}に心身^{しんく}を賤^{いや}しうするもの多^{おほ}ければ、土地^{とち}をはなれて他^たにいづれば、忽^{たちまち}難義^{なんぎ}のくるしみのあるをはやくさ
とらせんとてつゞりし（ロノニウ）もの也^{なり} されば巻^{まき}をひらく児女童^{ひめとの}幼^な達^{たち}たとへ富貴^{ふつき}にくらすとも、賤^{いやし}き人の艱難^{かんなん}を察^{さつ}しやり哀^{あは}れを知るを
誠^{まこと}の貴人^{きにん}と心得^{こころえ}たまへ かゝるはかなき草紙^{さうし}といへどもよく心を
とゞめてよみたまはゞ、經^{むづかしきふみ}書をあくびしながらお役^{やく}で読^{よむ}にはまさ
るべし かへすくも金銀^{きんぐ}にてももの、自由^{じゆう}を（ロノ三オ）なすとのみ思^{おも}
ふは奢^{おごり}の始^{はじめ}にて、奢^{おごり}は貧^{ひん}の基^{もとひ}也 貧^{ひん}は盗^{ぬす}みも起^{おこ}ると云^{いふ} およそ世^よ
に在^ある女子^{ぢよしたち}達^{たち}よ、美服^{びふく}を見て羨^{うらや}まずつゞれをまとふを眼^めに（ロノ三ウ）
とゞめ哀^{あはれ}を知らせ給^しへかし